

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会
事業主体 (連絡先)	第20回ライチョウ会議長野県駒ヶ根・宮田大会実行委員会 駒ヶ根市赤須町20番1号 駒ヶ根市役所 民生部 生活環境課内
事業区分	(5) 景観保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,228,810円 (うち支援金: 861,000円)

事業内容

平成30年に半世紀ぶりに中央アルプスでライチョウの雌個体が発見されたことをきっかけとして、環境省が令和元年度から保護増殖事業を行っており、令和3年度から5年計画で100羽にまで増やす計画となっている。

しかし、ライチョウが絶滅危惧種ⅠB類に指定されていることや、キツネやテンなどの外敵の影響を受けること、地球温暖化により生息範囲が狭まっていくことはあまり知られていない。

そこで、地元市村、近隣市町村の住民に、ライチョウ保護増殖事業の内容や中央アルプスの国立公園化に併せた自然環境保護の再認識、ライチョウ保護の重要性について知ってもらうことで、地域愛を深め、地域振興につなげるきっかけとするため、本事業の開催を企画し、ポスターやチラシの配布を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、1年程度延期することとなった。

事業効果

※ 地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

地域住民に対し、本イベントの開催を周知することを通して、県の鳥であるライチョウが中央アルプスで復活したこと、また、環境省を中心に保護増殖事業を実施していることを知ってもらうことにつながった。

加えて、西駒(中央アルプス)登山を実施している県内の中学校にポスターやチラシを配布することで、同様の効果を得ることができた。具体的には、駒ヶ根市内2校、宮田村内1校のほか、上伊那郡内外の36校、また、後援承認を受けた50団体にポスター約300枚、チラシ約5,000枚を配布した。

今後の取り組み

※ 今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本年度のイベント(事業)開催については、9月上旬(大会の要旨集作成の開始時点)において、上伊那地域の新型コロナウイルス感染症警戒レベルが5となり、大会の開催が困難であるという判断をせざるを得なくなった。このため、大会自体を概ね1年程度の延期することとし、本年度の事業を中止した。

来年度は、事態が改善していることを祈りつつ、本事業の当初の目的を達成するため、来年の同時期に同イベントを開催したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【チラシ】

【目標・ねらい】

- ① ライチョウについて知ってもらう
- ② 中央アルプスでライチョウが復活していることを知ってもらう
- ③ 自然環境保護の再認識
- ④ これらを通して地域愛を深める

※自己評価【C】

【理由】
新型コロナウイルス感染症の流行により、大会の開催が出来なかったため。